Press Release

HITACHI

本リリースの内容は、アメリカ東海岸において、11 月 18 日(水)午前 9:00（日本時間 18 日午後 11:00）に発表しました。

2026 年 11 月 19 日
Hitachi Digital

Hitachi Digital、企業が求める成果をAIのスピードと高い信頼性で実現する「HARC Compose」をローンチ

企業固有のコンテキストとガードレールのもと、AIエージェントによる開発・実装・運用のライフサイクル全体を統制し、リスク低減とAIネイティブな生産性向上を支援

株式会社日立製作所(以下、日立)の米国子会社でグローバルデジタルサービスを手掛ける Hitachi Digital Inc.(以下、Hitachi Digital)[*1] は、複雑な AI 駆動のシステムにおける AI エージェントを、企業固有のコンテキストとガードレールのもとで一貫して管理・統制するためのテクノロジーとサービスを統合した「HARC Compose」をローンチします。

日立が培ってきた実績と知見をベースに、HARC Compose は標準化されたプロセスと障害の発生を前提としたエンジニアリング手法により、開発から実装、運用、そして継続的な改善にいたる AI の実行プロセスを一つのクローズドループ(閉じた循環プロセス)として統合・連携させます。

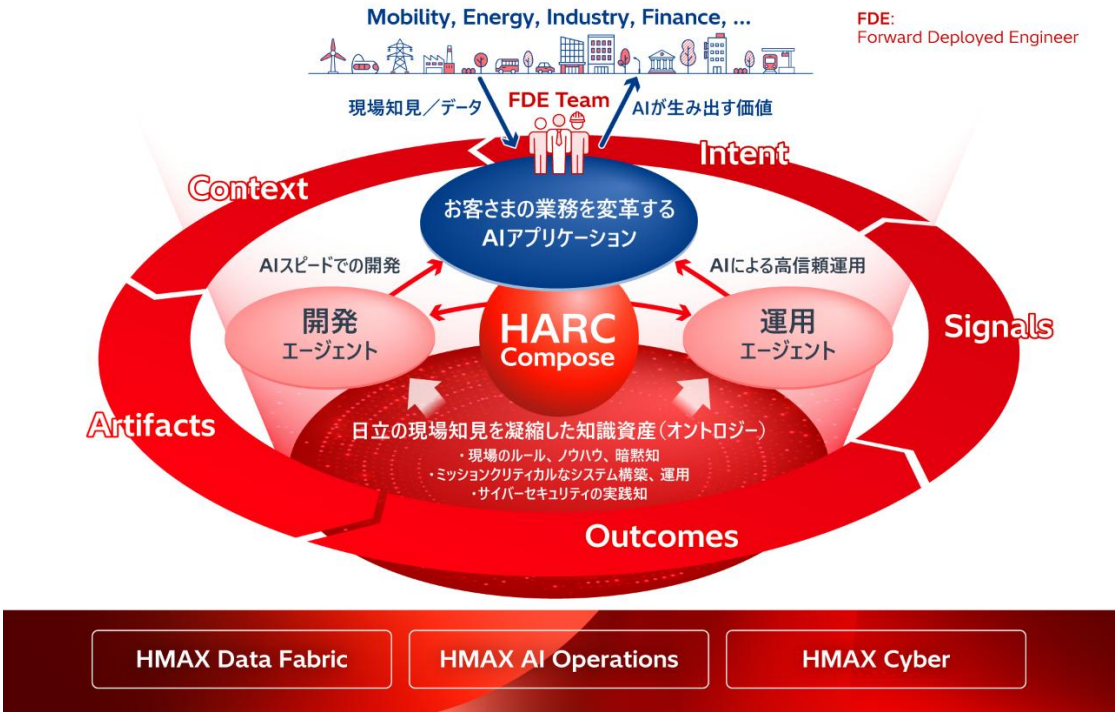
Hitachi Digital の FDE(Forward Deployed Engineer)は、HARC Compose を活用することで、信頼性の高い AI ネイティブアプリケーションを効率的に構築するとともに、稼働後も AI エージェントのパフォーマンスを継続的に維持・向上させます。これにより、開発から運用・改善まで継続してお客さまを支援するリカーリング型のサービス提供体制を強化し、アイデアを迅速に成果へとつなげ、持続的な価値創出に貢献します。また、マルチベンダー環境にも対応しており、お客さまの具体的な事業目標に合わせて、必要な機能を選択して活用することも可能です。

HARC Compose は、AI で社会インフラを革新する次世代ソリューション群「HMAX by Hitachi(以下、HMAX)」を強化するものです。現場の暗黙知やデータを統合する「HMAX Data Fabric」[*2] や、AI の安全な自律運用を支える「HMAX AI Operations」[*2]、AI 時代の事業継続を支援するオペレーショナルレジリエンスサービス「HMAX Cyber」[*3] といった HMAX の共通ソリューション群を拡張・補強します。これらすべての機能が連携することで、企業が蓄積してきた知識やデータを活用した安全な AI エージェントの開発から、セキュリティ環境下での安定した自律運用までを一貫して支援し、お客さまや社会における高度な AI の社会実装に貢献します。

*1 Hitachi Digital は GlobalLogic, Inc と Hitachi Digital Services LLC.の統合ブランド。法人としては 2027 年 4 月 1 日付で設立予定。
2026 年 10 月 28 日プレスリリース：「クラウド・データ・AI を事業成果につなげるグローバルデジタルサービス企業「Hitachi Digital」が発足」

*2 HMAX Data Fabric・HMAX AI Operations・Physical AI FDE Team

*3 HMAX Cyber



HARC Compose の概要図

Hitachi Digital CEO 兼 Chairman Anand Birje(アナンド・ビルジェ)のコメント

HARC Compose は、Hitachi Digital のあり方や取り組みを体現するものです。AI の真の価値は、単にソフトウェアのコードを速く書くことだけではなく、人間の創意工夫を、レジリエントでミッションクリティカルなシステムとして構成していくことにあります。HARC Compose によりエンジニアリングと運用の専門知識を組み合わせることで、お客さまが AI のスピードでイノベーションを起こしながら、構築したシステムを実証された信頼性のもとで安定稼働させることを可能にします。構築と実行の隔たりをなくすことは、フィードバックループを完結させ、世界で最も要求の厳しい企業が必要とするガバナンスと信頼性を提供します。

AI の進化により、ソフトウェア開発のスピードと生産性は大きく向上していますが、企業のシステム全体で実行される際に信頼できるものであるとは限りません。企業が蓄積してきた知見や事業目標、ポリシー、システム、リスク要件などの適切なコンテキストがなければ、ソフトウェア生成の高速化が、かえってリスクの拡大につながる可能性もあります。HARC Compose は、企画段階から本番運用までのプロセス全体にわたり企業の方針・目的(意図)を一貫して反映しながら、AI エージェントを連携・制御します。同時に、重要な意思決定については、専門家が適切に判断・管理できる仕組みを維持し続けます。

Hitachi Digital CTO Premkumar Balasubramanian(プレムクマール・バラスブラマニアン)のコメント

AI がソフトウェアを生成する時代において、スピードは当然のものとして期待されますが、信頼は自ら築き上げていくものです。お客さまにとって重要なのは、ソフトウェアの変更が何を改善するためのものなのかという「明確さ」、それが実際に機能したという「証明」、そして、そのプロセスの背後にある「信頼性」です。HARC Compose により、私たちは AI ネイティブエンジニアリングをより迅速に、より一貫性を持ち、説明責任を果たせるものにしていきます。当社の FDE は AI エージェントに指示を出して変更、テスト、調整を行わせる一方で、本番環境へリリースされるものに対しては人による厳格な監視を維持します。本番環境から得られるデータ(証拠)に基づいて、成果を検証することで、お客さまの事業を支えるソフトウェアに対して真の安心を提供します。

信頼を前提に設計

HARC Compose は、ソフトウェアの開発、実装、運用のプロセスを標準化し、一貫したガバナンスを実現します。エンジニアリングチームとオペレーションチームが共通のビジネス目標に基づいて業務を進め、各段階で企業のポリシーを適用します。こうした目標やポリシーに基づき、「何を構築するか」「AI エージェントをどのように使用するか」「いつ変更をリリースするか」「本番環境で成果をどのように評価するか」を判断します。HARC Compose の導入により、Hitachi Digital の FDE は、継続的な改善を迅速に進め、AI 駆動のシステムにおけるリスクを低減させることが可能になります。

HARC Compose は、中核となる開発、実装、運用の機能に加えて、以下の機能も備えています。

- **CAKE (Context-Aware Knowledge Engine)**
  企業の方針や目的、ドメイン知識、システム、ポリシー、リスク、セキュリティ、過去の意思決定、本番運用の履歴を関連付け、AI エージェントが必要なコンテキストとして活用できるようにすることで、信頼性が高く、責任あるアウトプットを支援します。また、エージェントが動作する前に情報の不足や矛盾を検出し、不確かな推測や、未解決の本番環境の問題を前提に作業が進むことを防ぎます。
- **Orchestration Engine**
  開発、実装、運用の各プロセスで動作する複数の AI エージェントや、お客さまが選択するさまざまな AI ツールを、一つのシステムとして一貫して連携・制御します。マルチベンダー環境においても、企業固有のコンテキストとガードレールのもとで、これら異機種のエージェントやツールを柔軟に組み合わせて活用することが可能です。これにより、お客さまは既存のコーディングツールや AI ハーネスなどの開発・運用環境を置き換えることなく、現行システムの価値や生産性をさらに高めることができます。
- **Failure-conscious Engineering**
  FMEA(Failure Mode and Effects Analysis：故障モード・影響解析)を用いて、変更に伴って想定される障害を事前に特定し、リリース前に必要なテストを検討します。さらに、特定したリスクをテストや統制、および迅速なリカバリー戦略へと落とし込みます。

さらに、これらを横断する共通機能によって、より高度な監視・統制を実現します。その一環として、Responsible AI(責任ある AI)は、AI エージェントが本来の目的から逸脱するエージェントドリフトなど、意図しない挙動に対処します。また、Guided Work(協調型ワーク)と Autonomous Work(自律型ワーク)の二つの方法により、必要に応じて人間が適切に関与できる仕組みを提供します。Guided Work では、エージェントが行動する前にエンジニアがその判断内容を確認します。一方、Autonomous Work では、事前に合意された範囲内でエージェントが自律的に処理を進め、エンジニアがその動作を監視します。

日立によるシステムインテグレーションと、拡張性に優れたインタフェースにより、HARC Compose は既存の企業 IT 環境とスムーズに連携することが可能です。これにより、お客さまがすでに利用しているソフトウェアの開発・デリバリーや、システム運用、ガバナンス、BI(ビジネスインテリジェンス)といったシステムを連携させてサポートすることができます。

Outcome-Forward Engineering により、意図を成果につなげる

HARC Compose は、Hitachi Digital の FDE Team が活用する OFE(Outcome-Forward Engineering)という方法論に基づいています。OFE では、要件定義、開発、実装、運用を一連の継続的なシステムとして捉えます。システムをリリースした時点をゴールとするのではなく、実際の運用環境で意図したビジネス成果が得られて初めて、デリバリーが完了したと考えます。OFE は、以下の 3 つの基本原則に基づいています。

- **Fidelity：**作業開始前に、目的や制約、障害リスクおよびガードレールを明確化

- **Throughput**：コーディングエージェントを活用し、明確化した目的を、迅速に実運用可能な変更へと落とし込む
- **Trust**：意図した成果が本番環境で実現され、その効果が持続していることを検証

これら 3 つの原則を支えるのが CAKE です。CAKE は、過去のエンジニアリング上の意思決定を含む関連する企業ナレッジに、AI エージェントがアクセスできる環境を提供します。

Hitachi Digital の FDE による HARC Compose を活用した支援は、金融、ヘルスケア、テクノロジー業界の世界中のお客さま向けに始まっています。今後、Hitachi Digital による人財強化やエコシステム・アライアンスの拡大に合わせて、HARC Compose の機能も順次拡充していく予定です。

HARC Compose について

HARC Compose Video (英語サイト)

Hitachi Digital について

株式会社日立製作所の完全子会社である Hitachi Digital は、複雑でミッションクリティカルな業界の組織が、クラウド、データ、AI を測定可能なビジネス成果へと転換できるよう支援するグローバルなデジタルサービス企業です。GlobalLogic と Hitachi Digital Services の統合により設立する当社は、エンタープライズ AI から Physical AI に至るまで、デジタルエンジニアリングとオペレーションを融合させ、27 カ国、約 35,000 人の専門家を擁しています。社会に不可欠なシステムをエンジニアリングしています。“Engineer what the world depends on” 詳細は www.hitachidigital.com をご覧ください。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。